

★★周旋家日記 29★★

シティズンシップについて考える⑥－ “単なる調べ学習ではなく、探究学習になる ため”の出張講義報告

乾明紀

1. はじめに

安倍首相が新型コロナウイルス対策で全国の学校に休校を要請する少し前、とある私立女子高校（以下 A 高校）から出張講義の依頼があった。1 年生を対象に「単なる調べ学習ではなく、探究学習になるための講義をしてほしい」というものであった。本マガジン 36 号¹にも書いたが、「総合的な探究の時間」（以下「総探」）が必須となり、同様の相談や依頼が多く寄せられるようになった。2019 年度入学の高校 1 年生から「総探」は先行実施されており、先生方もその方法を探究（模索）されているようである。

探究学習はシティズンシップ教育の一環でもあることから、高校からのこのような依頼に対して、どのような講義を提供したのかを本稿で報告しておこうと思う。

A 高校へのお出張講義は初めてであったため、学校のホームページなどを閲覧し、生徒の興味関心なども想像しつつ内容を構成し、以下の講義（50 分×2 コマ連続）をおこなった。

2. 講義の導入

講義の導入は、最初に 2 つの目的（図 1）を示し、講義の全体像とゴールを説明した。その後、筆者が簡単な自己紹介をおこない、次に生徒たちからも自己紹介をしてもらった。

45 名ほどいた生徒たちの自己紹介の方法は、こちらから配布した白紙の A4 用紙を 4 つに折り、

こちらが指示した項目（図 2）に従って記入し、筆者に見せるというものとした。

この自己紹介の狙いは、生徒たちの緊張を和らげるとともに、生徒たちの状況や探究心の動向を探るものであった。「今の気持ち」の確認は、ワークショップのチェックイン（導入とアイスブレイク）として多用されている手法でもある。「今、ハマっていること」は、生徒のプライベートでの探究的活動を垣間見ることができて面白い。生徒が書いた内容を見ると、特定の歌手や俳優などへの熱心な思いからテスト勉強や部活動まで多様で、それぞれの個性が伝わってきた。

本講座の目標	
1. 「探究」とは、何をすることかを理解する	
2. 探究するために必要なことを知る	
① “こども心”を取り戻すこと！	
② 探究の方法を知る	
③ 探究レベルを上げていくこと！	

図 1 本講座の目標

紙に書いて下さい。	
今、ハマっていること (好きなこと、興味のあること、 趣味などもOK)	今の気持ち
名前 (ニックネーム可)	
最近あった嬉しいこと or 最近あった面白いこと	好きな食べ物

図 2 生徒の自己紹介シート

3. 「探究」という用語の説明

導入が終わり、探究とは「物事の本質を自己の関わりで探り見極めようとする一連の知的営み」（田口，2019）²であるとの定義を紹介した。しかし、この説明で腑に落ちる高校 1 年生はほとんど

¹ 乾明紀（2019）周旋家日記（27）「シティズンシップについて考える④－高校生の探究学習、対人援助学マガジン、36、pp145 - 147

² 田口哲男（2019）「高校における学びと技法 探究で資質・能力を育てる」一藝社

いないだろう。

そこで、ワークも交えながら体感できるように工夫した。よく使われる手法であるが、騙し絵(図3)を用い、様々な角度から物事の本質を探究することの重要性を気づかせようとした。



図3 騙し絵³

また、「自己の関わり」についての気づきを促すために、SNS や買い物事例に「社会×わたし」の関係について思考してもらった(図4)。

自分たちの SNS の利用⁴が、テレビや広告代理店などのビジネスモデルを大きく変化させ、さらには、子どもたちの意識(男子小学生の将来就きたい職業第1位が Youtuber に⁵)にも影響を与えていることを伝えた。また、自分たちの買い物などで提供する顔も含めた個人情報が、AI によって分析・利用されている事例を紹介し、「社会×わたし」の関係は加速度的に変化していることを解説した。すると、筆者と目が合う生徒の数も増え、「社会×わたし」で捉えようとする姿が見て取れた。

興味関心を高めてくれた生徒たちに対して、「変化の激しい時代だから、変化をつかみ未来を予測できる人になってほしい！」そのために「最も必要な能力が、探究する力！」であるというメッセージを送り、本題に入った。

³出典

<http://www.senju.co.jp/consumer/resteye/damashie/011.html>

⁴ 生徒たちにテレビと Youtube を比較し、どちらの視聴時間が長いかを尋ねたところ、ほとんどの生徒が後者と答



図4 「社会×わたし」の事例

4. 探究するために必要なこと

ここから生徒たちに、単なる調べ学習に留まらない探究活動とはどのような行動かを示していかなければならない。

講義では、探究するために必要な3つのポイントとして「①“こども心”を取り戻すこと」、「②探究の方法を知る」、「③探究レベルを上げていくこと！」を示した(図5)。

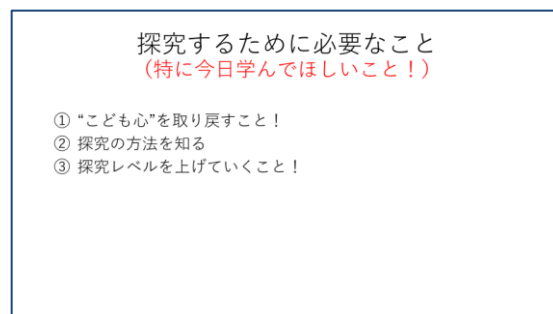


図5 探究するために必要な3つのポイント

(1) “こども心”を取り戻すこと

幼児期のこどもたちは、様々な外部刺激に素直に反応し、手に取ったりしながらそれが何かを知ろうとする。この頃の子どもは、時間や服の汚れなどを気にすることなく夢中になる(図6)。しかし、周囲からの目を気にしたり、すべきことが優

え、生徒たちのメディア環境の変化が見てとれた。

⁵ 学研教育総合研究所 (2019)「小学生の日常生活・学習に関する調査」

<https://www.gakken.co.jp/kyouikusuouken/whitepaper/201908/index>

先されていく過程で「なぜ？」という反応が生じにくくなっている可能性を指摘した。

自己紹介に書いた「今、ハマっていること」のように、社会で生じる様々なことを探究することの大切さを説いた。



図6 探究する子ども

(2) 探究の方法を知る

ここでは、能動的なサイクルである「探究」と「単なる調べ学習」の違いを図によって示した(図7)。こども心を取り戻せば、目の前のこと(きっかけ)への反応性が高まり、左のサイクルが駆動しやすくなることを伝えた。

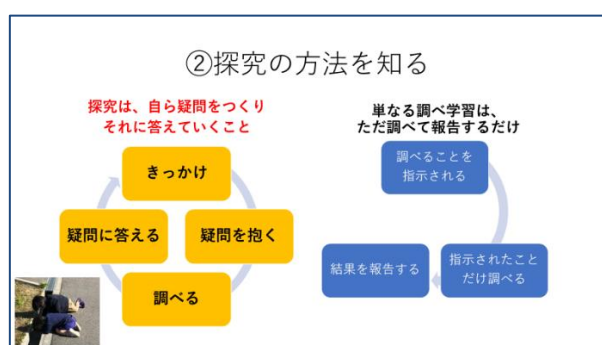


図7 探究活動と単なる調べ学習の違い

(3) 探究レベルをあげていくこと①(探究レベル1～3)

ここでは、5段階の探究レベル(図8)を提示し、より深いレベルの探究ができるように、各レベルの行動を具体的に示した。

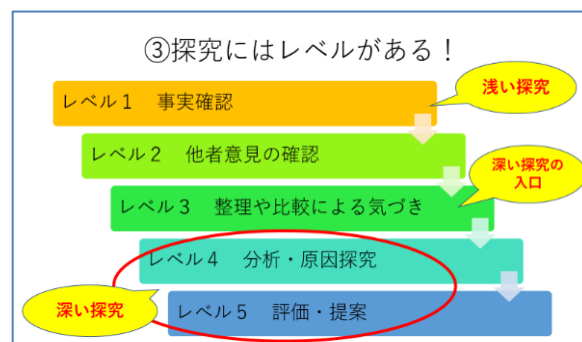


図8 探究レベルの5段階

レベル1は「事実確認」である。例えば「日本の人口は?」、「訪日外国人の数は、10年間でどのように変わったのか?」などの問いに答えていくことが該当する。スマホを用いればすぐに答えにたどり着ける探究である。

レベル2は「他者意見」の確認である。例えば「訪日外国人が増加することで、どのような影響があると言われていたのだろうか?」といった問いに対して、報道や識者など他者意見を確認していくことである。

また、このプロセスで注意すべきものとして、できるだけ専門家の意見に触れること、事実と意見は異なること、デマやフェイクニュースがあることを伝えた。

レベル3は「整理・比較による気づき」(または「整理・比較と気づき」)である。これは、分類や比較をすることでより高次の疑問が生じ、それに答えていく探究活動である。例えば「専門学校と大学の違いは何だろうか?」という問いに対して、それぞれを調べ比較していけば、共通点や相違点が見えてくる。この比較によって得られた情報が、さらなる探究(より深い探究)のきっかけとなるのである。

講義では、ここまで説明した3つのレベルうち、主に「事実確認」と「整理・比較による気づき」の方法について、実例を示した。

まず、ファッションに関する次の記事⁶を提示し、

⁶ Oggi.jp <https://oggi.jp/51317>

それを読ませ、どこまで理解できるかを確認した。

黒ライダーズに黒スキニーのカッコよいスタイルを際立たせるのが、襟元&そでの白ブラウスレイヤード。ゆるっとしたサイズのニットからヴィンテージ風ブラウスだから〔原文ママ〕、よりモード感と今っぽさが表現できる。

ファッションに興味関心が高まる年頃の女子高生ではあるが、文中の赤（太）文字の意味をすべて理解できている生徒はいなかった（同席した男性の高校教員はほとんどわからなかった）。

そこで、わからないことをそのままにしておく弊害として、チャンスの喪失などがあることを述べるとともに、「事実確認」の面白さを伝えた。例えば「黒ライダーズ」では、黒いライダーズジャケットという言葉の意味だけでなく、ファッションと映画（「the Wild One」でマーロン・ブランドが着用したことで人気が高まったと言われている）や若者文化との関係に触れたり、スキニー（skinny）という単語が最難関大学入試レベルであることを紹介したりしながら事実確認によって世界が広がり、知識も増えることを示した。

また、「分析・比較による気づき」については、1920年代と50年代のブラウスを提示し（図9）、生徒に比較してもらった。



図9 1920年代と50年代のブラウス

（4）探究レベルをあげていくこと②（探究レベル4・5）

探究レベル4は、「分析・原因探究」である。ここでの問いは、ただ比較するだけでなく、理由（原因）、背景、影響などを分析することで、出来事に潜む「意味」を発見していくものである。

例えば、「1920年代と1950年代のブラウスの形態が変化したのはなぜか？」（図10）といった原因究明の問いを立て、それに答えていく探究活動である。講義では、第一次世界大戦から1950年代までのアメリカ社会を紹介しながら（例えば図11、探究レベル2の「他者意見の確認」でもある）、社会と女性の関係変化について解説をおこない、この問いに答えていった。



図10 探究レベル4「分析・原因探究」の例

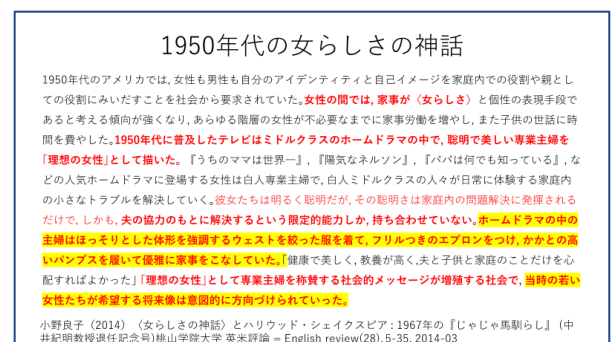


図11 1950年代の女らしさ（小野, 2014）⁷

探究レベル5は、「評価・提案」である。妥当性

⁷ 小野良子(2014). 〈女らしさの神話〉とハリウッド・シェイクスピア：1967年の『じゃじゃ馬馴らし』

し』（中井紀明教授退任記念号）.英米評論. 28, pp5-35

を評価したり、将来を予想したり、解決先を提示したりするための探究活動である。

講義では時間の関係もあり探究活動の実例を示さなかったが、レベル4の問いを発展させ、「女性や社会の意識を変えるために、高校の制服はどうあるべきか？」などに答えていく探究活動であることを紹介した。

このようにレベル毎の探究活動を実演しながら単なる調べ学習に陥りがちな「浅い探究」と「深い探究」(高校生レベルの探究学習)の違いを示した。そして、探究の魅力や利点として次の7点を伝え、この講座をまとめた。

- ① 興味が連鎖していく！
- ② 新しい発見につながる！
- ③ 「わかる」(知識)が増える！！
- ④ 暗記じゃないから簡単に忘れない(記憶しやすい)
- ⑤ より深いレベルまで理解できるようになる！
- ⑥ プチ専門家になれる！
- ⑦ 他者に説明できるようになる！

5. まとめ

50分×2コマという限られた時間の中で、かつ講義という形態で探究学習の面白さを伝えてみたが、生徒たちにどこまで伝わったであろうか。残念ながら、高校が一斉休校になり生徒の感想や反応はまだ聞けていない。この講義によって探究学習の意義が伝わり、自身の可能性が高まる活動(学習)だと一人でも多くの生徒が認識してくれたならば、とてもうれしい。

世界経済が密接につながり、テクノロジーが加速度的に進化し、社会やビジネスのあり方が革命

的に変容する時代に生徒たちは生きている。また、国内に目を向ければ、人口や経済の縮減傾向が若者たちの未来に暗い影を落としている。

「このような時代に生きる若者たちをどのように育成していくべきか？」という問いに対して、大人が探究して導き出した解のひとつが、探究学習によって「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成すること」(文部科学省, 2018)⁸であった。かつての日本社会のように「家族、学校、企業社会のトライアングル」(小玉, 2002⁹, 2018¹⁰)によって長期かつ安定的な生活環境を若者に提供することはできなくなった。若者には厳しい時代かもしれないが、探究学習を通じて、自分と社会の変化を楽しめる人になってくれればと願う。

日記は続く

⁸ 文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編」

⁹ 小玉重夫(2002)公教育の構造変容--自由化のパラドクスと「政治」の復権. 特集 1990年代--教育変

動の諸相, 教育社会学研究, 70, pp21-38

¹⁰小玉重夫(2018).「労働と教育」再考(特集 職業と労働市場),日本労働研究雑誌 60(8), pp60-66.